

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGsの達成を目指し、Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
【知識・技能】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会で用いられているAI等のテクノロジーが持つ機能や役割、実例などの基礎的な情報を自分の言葉で説明することができる</li> <li>簡単なプログラムを使って実際にAIを動かすことができる</li> </ul>	
【思考力・判断力・表現力】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的課題について調べ、AI等のテクノロジー活用した解決方法を提案することができる</li> <li>AIが人々、社会にとって正しく活用されるための倫理的判断をすることができる</li> <li>テクノロジーが人間個人、社会に与える影響を考察することが出来る</li> <li>上記事項について、他者に適切に提示/説明することができる</li> </ul>	
【学びに向かう力・人間性】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>AIや新たな技術開発、イノベーションについてより深く知ろうとし、それをういて解決しようとする姿勢を持つことが出来る</li> <li>社会的課題に向き合う中で、AIなどに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、人間の本来の生き方について追求することができる</li> </ul>	
下位学習目標	
【知識・技能】 再考する余地あり！！！！	
①実際にAIを社会で活用する人を通じて、社会で用いられている実践的なAI活用に関わる知識を獲得することができる	
②社会課題解決のために、2年でAIを動かした経験と、社会課題に関わる客観的なデータを基にAIを活用した具体的な提案をすることができる	
【思考力・判断力・表現力】	
①AIを活用した社会課題の解決案について、議論などを通じて他者と協働して創造することができる	
②AIを活用した社会課題の解決案について、倫理的な判断を加味することができる	
【学びに向かう力・人間性】	
①AIを活用した社会課題の解決案について、他者に分かりやすく提示し、他者の考え方や生き方に影響を与えることができる	
②AIや新たな技術開発、イノベーションについて、自発的に調べ知識を追い求めることができる	
③社会課題に向き合う中で、AIなどに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、自分の生き方について追求することができる	

授業日	4/16(火)	1 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】② ----- 本時の具体的な目標 ・「学びの記録」の書き方を体験する ・AI が広く社会でどのように話題になっているかを知る ・散らばった情報を協働して分類することが出来る																		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目 5 分 40 分	合同オリエンテーションのため割愛  「AI 活用入門」の動画が視聴できるかどうかの確認 1) グループワーク A) まずは個人で新聞記事を読む、適宜線を引く B) 4 人 1 組で新聞記事をロイロを使って分類する C) グループの代表者がロイロ提出箱に提出 ・メンバー全員のクラス、番号、名前を記載 ・どのような基準で分類したか、も記載 2) 個人ワーク A) 分類に基づいて、自分の関心を 1 つに絞る B) 「学びの記録」を記入する ・「知識/事実」は新聞記事を通して知ったことを書く = K(now) ・「考察」は、今回知った K と、既に知っていたや体験したことがあることを考察し、これからどのようなことを知りたいか、知らないといけないかを書く = W(ant to know) C) 次回 4/23(火)の授業で「学びの記録」提出																	
評価方法	学びの記録の評価ルーブリック <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2"><b>観点1 知識</b></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>論点をしっかりと整理して記述できている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>論点をある程度整理して記述している</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>論点があまり整理して記述されていない</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>観点2 考察</b></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>表層的な感想や意見にとどまっている</td> </tr> </table>			<b>観点1 知識</b>		A	論点をしっかりと整理して記述できている	B	論点をある程度整理して記述している	C	論点があまり整理して記述されていない	<b>観点2 考察</b>		A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる	B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる	C	表層的な感想や意見にとどまっている
<b>観点1 知識</b>																			
A	論点をしっかりと整理して記述できている																		
B	論点をある程度整理して記述している																		
C	論点があまり整理して記述されていない																		
<b>観点2 考察</b>																			
A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる																		
B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる																		
C	表層的な感想や意見にとどまっている																		
宿題指示	学びの記録																		

授業日	4/23(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】① 【学びに向かう力・人間性】② ----- 本時の具体的な目標 ・「AI 活用人材」についての概観をつかむことができる ・Chat GPT がどのようなものでどう活用できるか考えることが出来る		
時間 授業内容	10	前回の授業の振り返り ・思い：「世の中で AI についてどんなことが話題になっているのだろう？知りたい！」 ・1 つの方法：「新聞には最新の話のことが書いているから、それらから共通項を抜き出して分類してみよう！共通項が分かればキーワードが得られる！」 ・今回取った手法について	

	80	<p>1) 帰納法(的手法)</p> <p style="padding-left: 20px;">= 同じような事象を複数見つけ、その共通点から結論を導く手法</p> <p style="padding-left: 40px;">長所：新たな広い知識を拡張できる</p> <p style="padding-left: 40px;">短所：論理的に必ず正しい結論が導き出せない場合がある (エラー値、例外、当てはまらないものがある)</p> <p>2) 協働ワーク</p> <p style="padding-left: 20px;">違う視点を持つもの同志が集まると多様な視点が得られる (グループ内、グループ間)</p> <p>関西学院大学工学部 巳波 弘佳教授による講義と Chat GPT のワーク</p> <p style="padding-left: 20px;">「急激な進化にあなたはどのように向き合うか」</p>
--	----	--

評価方法	<p>学びの記録の評価ルーブリック</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><th colspan="2">観点1 知識</th></tr> <tr><td style="width: 10%;">A</td><td>論点をしっかりと整理して記述できている</td></tr> <tr><td>B</td><td>論点をある程度整理して記述している</td></tr> <tr><td>C</td><td>論点あまり整理して記述されていない</td></tr> <tr><th colspan="2">観点2 考察</th></tr> <tr><td>A</td><td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる</td></tr> <tr><td>B</td><td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる</td></tr> <tr><td>C</td><td>表層的な感想や意見にとどまっている</td></tr> <tr><th colspan="2">観点3 調べたこと</th></tr> <tr><td>A</td><td>知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた</td></tr> <tr><td>B</td><td>知りたいと思ったことを自発的に少し調べた</td></tr> <tr><td>C</td><td>調べていない</td></tr> </table>	観点1 知識		A	論点をしっかりと整理して記述できている	B	論点をある程度整理して記述している	C	論点あまり整理して記述されていない	観点2 考察		A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる	B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる	C	表層的な感想や意見にとどまっている	観点3 調べたこと		A	知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた	B	知りたいと思ったことを自発的に少し調べた	C	調べていない
観点1 知識																									
A	論点をしっかりと整理して記述できている																								
B	論点をある程度整理して記述している																								
C	論点あまり整理して記述されていない																								
観点2 考察																									
A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる																								
B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる																								
C	表層的な感想や意見にとどまっている																								
観点3 調べたこと																									
A	知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた																								
B	知りたいと思ったことを自発的に少し調べた																								
C	調べていない																								

宿題指示	学びの記録
------	-------

授業日	5/7(火)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回																	
本時 学習目標	<p>主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI の機能について知る</li> <li>・ AI をビジネスに活用している企業について知る</li> </ul>																			
時間 授業内容	<p>15</p> <p>30</p> <p>45</p>	<p>学びの記録のフィードバック</p> <p>実際に AI が使われているサイトに触れてみる → 機能紹介</p> <p style="padding-left: 20px;">自然言語処理 → 横浜市のごみに関するチャットボット</p> <p style="padding-left: 20px;">画像認識 → Google cloud vision AI</p> <p style="padding-left: 20px;">動画解析 → Microsoft Azure AI Video Indexer</p> <p style="padding-left: 20px;">音声認識 → Google Speech to text AI</p> <p>AI 活用入門講座の動画「AI ビジネスに活用している企業」を視聴する</p>																		
評価方法	<p>学びの記録の評価ルーブリック</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><th colspan="2">観点1 知識</th></tr> <tr><td style="width: 10%;">A</td><td>内容をしっかりと整理して記述できている</td></tr> <tr><td>B</td><td>内容をある程度整理して記述している</td></tr> <tr><td>C</td><td>内容あまり整理して記述されていない</td></tr> <tr><th colspan="2">観点2 実体験</th></tr> <tr><td>A</td><td>得た知識と実体験との有機的なつながりが多く見られる</td></tr> <tr><td>B</td><td>得た知識と実体験との有機的なつながりが多少見られる</td></tr> <tr><td>C</td><td>表層的な感想や意見にとどまっている</td></tr> </table>				観点1 知識		A	内容をしっかりと整理して記述できている	B	内容をある程度整理して記述している	C	内容あまり整理して記述されていない	観点2 実体験		A	得た知識と実体験との有機的なつながりが多く見られる	B	得た知識と実体験との有機的なつながりが多少見られる	C	表層的な感想や意見にとどまっている
観点1 知識																				
A	内容をしっかりと整理して記述できている																			
B	内容をある程度整理して記述している																			
C	内容あまり整理して記述されていない																			
観点2 実体験																				
A	得た知識と実体験との有機的なつながりが多く見られる																			
B	得た知識と実体験との有機的なつながりが多少見られる																			
C	表層的な感想や意見にとどまっている																			
宿題指示	本日授業で学んだ3つの機能を用いたAIについて、この1週間自分の身の回りにあるものの中から探してくる																			

授業日	5/14(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回																								
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ・ AI をビジネスに活用している企業について協働して調べることが出来る																										
時間 授業内容	10 80	AI 活用入門講座の動画「AI ビジネスに活用している企業」について的小テスト グループワーク： 1) 発表日: 5/28(火) 2) 発表時間：4分 3) 発表形式：4つのスライド 概要 / 課題 / ソリューション / 効果 4) ルール： 概要スライド：1名が担当 「課題」「ソリューション」「効果」は各スライド1名が担当 5) 評価方法の説明：相互評価の中からインパクト賞も選出 6) 「文系 AI 人材になる」のコピーを配布																									
評価方法	発表ルーブリック <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である</td> </tr> <tr> <th colspan="2">観点2 発表内容のインパクト</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>発表内容について、インパクトがあまりない</td> </tr> <tr> <th colspan="2">観点3 発表の仕方「熱意」</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない</td> </tr> </table>			観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ		A	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である	B	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である	C	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である	観点2 発表内容のインパクト		A	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている	B	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある	C	発表内容について、インパクトがあまりない	観点3 発表の仕方「熱意」		A	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。	B	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる	C	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない
観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ																											
A	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である																										
B	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である																										
C	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である																										
観点2 発表内容のインパクト																											
A	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている																										
B	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある																										
C	発表内容について、インパクトがあまりない																										
観点3 発表の仕方「熱意」																											
A	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。																										
B	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる																										
C	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない																										
宿題指示	発表準備																										

授業日	5/28(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標		
時間 授業内容	30 60	準備 発表 4分×11 相互評価  企業が導入している AI の概要が明確さ (課題ソリューション効果の流れが明確) インパクトある内容 おっと、すごい、へー感 発表の仕方(長安ルーブリック)	
評価方法	発表、相互評価表		
宿題指示			

授業日	6/4(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①		

学習目標	本時の具体的な目標																									
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が、実際に AI を活用して仕事を行っている人から AI の実際的な活用方法の現状を学ぶ</li> <li>生徒が、AI を活用するアイデアを自分たちで考えることができる</li> </ul>																									
時間	45	X-mov Japan 社長の長安さんから、会社の事業や AI 活用の現状の講義を受ける																								
授業内容	45	Modal AI を用いて課題解決案をグループワークで議論する																								
評価方法	学びの記録 <table border="1"> <tr><td colspan="2"><b>観点1 知識</b></td></tr> <tr><td>A</td><td>論点をしっかりと整理して記述できている</td></tr> <tr><td>B</td><td>論点をある程度整理して記述している</td></tr> <tr><td>C</td><td>論点があまり整理して記述されていない</td></tr> <tr><td colspan="2"><b>観点2 考察</b></td></tr> <tr><td>A</td><td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる</td></tr> <tr><td>B</td><td>得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる</td></tr> <tr><td>C</td><td>表層的な感想や意見にとどまっている</td></tr> <tr><td colspan="2"><b>観点3 調べたこと</b></td></tr> <tr><td>A</td><td>知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた</td></tr> <tr><td>B</td><td>知りたいと思ったことを自発的に少し調べた</td></tr> <tr><td>C</td><td>調べていない</td></tr> </table>		<b>観点1 知識</b>		A	論点をしっかりと整理して記述できている	B	論点をある程度整理して記述している	C	論点があまり整理して記述されていない	<b>観点2 考察</b>		A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる	B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる	C	表層的な感想や意見にとどまっている	<b>観点3 調べたこと</b>		A	知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた	B	知りたいと思ったことを自発的に少し調べた	C	調べていない
<b>観点1 知識</b>																										
A	論点をしっかりと整理して記述できている																									
B	論点をある程度整理して記述している																									
C	論点があまり整理して記述されていない																									
<b>観点2 考察</b>																										
A	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多く見られる																									
B	得た知識と既知の知識・体験の有機的なつながりが多少見られる																									
C	表層的な感想や意見にとどまっている																									
<b>観点3 調べたこと</b>																										
A	知りたいと思ったことを自発的にいくつか調べた																									
B	知りたいと思ったことを自発的に少し調べた																									
C	調べていない																									
宿題指示	学びの記録																									

授業日	6/11(火)	1 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回																																																								
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>AI を活用している企業の課題、ソリューション、成果について語ることが出来る</li> </ul>																																																										
時間 授業内容	20	準備																																																									
	75	発表 4分×11 班 「AI をビジネス活用している企業」について 観点①企業が導入している AI の概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ 観点②発表内容のインパクト 観点③訴求力																																																									
評価方法	<発表ルーブリック> <table border="1"> <tr><td colspan="4"><b>観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ</b></td></tr> <tr><td>A</td><td>5点</td><td colspan="2">企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である</td></tr> <tr><td>B</td><td>3点</td><td colspan="2">企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である</td></tr> <tr><td>C</td><td>1点</td><td colspan="2">企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td colspan="4"><b>観点2 発表内容のインパクト</b></td></tr> <tr><td>A</td><td>5点</td><td colspan="2">発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている</td></tr> <tr><td>B</td><td>3点</td><td colspan="2">発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある</td></tr> <tr><td>C</td><td>1点</td><td colspan="2">発表内容について、インパクトがあまりない</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td colspan="4"><b>観点3 訴求力</b></td></tr> <tr><td>A</td><td>5点</td><td colspan="2">発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。</td></tr> <tr><td>B</td><td>3点</td><td colspan="2">発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる</td></tr> <tr><td>C</td><td>1点</td><td colspan="2">発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない</td></tr> </table>			<b>観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ</b>				A	5点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である		B	3点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である		C	1点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である						<b>観点2 発表内容のインパクト</b>				A	5点	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている		B	3点	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある		C	1点	発表内容について、インパクトがあまりない						<b>観点3 訴求力</b>				A	5点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。		B	3点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる		C	1点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない	
<b>観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ</b>																																																											
A	5点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である																																																									
B	3点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である																																																									
C	1点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である																																																									
<b>観点2 発表内容のインパクト</b>																																																											
A	5点	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている																																																									
B	3点	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある																																																									
C	1点	発表内容について、インパクトがあまりない																																																									
<b>観点3 訴求力</b>																																																											
A	5点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。																																																									
B	3点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる																																																									
C	1点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない																																																									

	<宿題の学びの記録ルーブリック>	
	<b>観点1 知識</b>	
	A	企業についてしっかりと整理して記述できている
	B	企業についてある程度整理して記述している
	C	企業について整理して記述されていない
	<b>観点2 考察</b>	
	A	得た知識と自分のつながりをしっかりと整理して記述できている
B	得た知識と自分のつながりを整理して記述できている	
C	表層的な感想や意見にとどまっている	
宿題指示	今回のワークショップに向けて、アクセンチュアの資料と動画を見て、学びの記録を書いてくる。	

授業日	6/18(火)	1 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】① 本時の具体的な目標 ・データサイエンスを通じて、データ分析と問題解決のプロセスを理解する。 ・専門的な知識やスキル、問題解決能力やコミュニケーション能力を身につける		
時間 授業内容	90	アクセンチュアによるワークショップ：2・3年合同授業 「データサイエンスでビジネスを変革：データ分析で企業戦略を考えよう」 ・講義：AI とデータサイエンスの関係 データサイエンスの流れ ・ワークショップ：4つのテーマパーク、それぞれレストラン/ショップ/イベント部門に分かれ、 実在する遊園地のデータを参考にして、どこのパークが最も売り上げを挙げられるかを競う 1) 仮説立案（優先度付け） 2) 仮説立案（検証方法） <次回> 3) データの読み取り 4) 施策の選択・最終発表・インプット講義 5) 交流会	
評価方法	なし		
宿題指示	なし		

授業日	6/25(火)	1 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】① 本時の具体的な目標 ・データサイエンスを通じて、データ分析と問題解決のプロセスを理解する。 ・専門的な知識やスキル、問題解決能力やコミュニケーション能力を身につける		
時間 授業内容	90	アクセンチュアによるワークショップ：2・3年合同授業 「データサイエンスでビジネスを変革：データ分析で企業戦略を考えよう」 ・講義：AI とデータサイエンスの関係 データサイエンスの流れ ・ワークショップ：4つのテーマパーク、それぞれレストラン/ショップ/イベント部門に分かれ、	

	<p>実在する遊園地のデータを参考にして、どこのパークが最も売り上げを挙げられるかを競う</p> <p>&lt;前回より継続&gt;</p> <p>3) データの読み取り</p> <p>4) 施策の選択・最終発表・インプット講義</p> <p>5) 社員の方々との交流会</p>																
評価方法	<p>ポートフォリオ：以下の内容について400字以内で論述しなさい。</p> <p>今回のワークショップで経験したことは、AIを今後活用していくうえでどのように役立つだろうか。ワークショップ内での具体的な経験に言及しながら記述しなさい。なお、「データサイエンスとは何か」については必ず触れなさい。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">観点1 知識</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>データサイエンスについて、大変明確に記述している</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>データサイエンスについて、ある程度記述している</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>データサイエンスについて、あまり記述していない</td> </tr> <tr> <th colspan="2">観点2 考察</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>具体的な経験とAI活用を、大変有機的に考察している</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>具体的な経験とAI活用を、ある程度関係させて考察している</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>具体的な経験とAI活用との関わりが見られない</td> </tr> </table>	観点1 知識		A	データサイエンスについて、大変明確に記述している	B	データサイエンスについて、ある程度記述している	C	データサイエンスについて、あまり記述していない	観点2 考察		A	具体的な経験とAI活用を、大変有機的に考察している	B	具体的な経験とAI活用を、ある程度関係させて考察している	C	具体的な経験とAI活用との関わりが見られない
観点1 知識																	
A	データサイエンスについて、大変明確に記述している																
B	データサイエンスについて、ある程度記述している																
C	データサイエンスについて、あまり記述していない																
観点2 考察																	
A	具体的な経験とAI活用を、大変有機的に考察している																
B	具体的な経験とAI活用を、ある程度関係させて考察している																
C	具体的な経験とAI活用との関わりが見られない																
宿題指示	上記ポートフォリオを7/6(土)までに提出																

観点1 そのアイデアに用いられるAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」と「分類」「AIが何をするのか」の説明の明確性	観点2 そのアイデアを実施することの「必要性」、世の中や人を動かす「波及性」、売れそうかどうか「可能性」とインパクト	観点3 訴求力
A 5点 企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」だけでなく、用いられるAIの「仕組み」の説明の全ての項目の説明が大変明確である	A 5点 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクト	A 5点 発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。
B 3点 企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である	B 3点 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクト	B 3点 発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる
C 1点 企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である	C 1点 発表内容について、インパクトがあまりない	C 1点 発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない

観点1 企業が導入しているAIの概要「課題」「ソリューション」「効果」の説明の明確さ	
A 5点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明が大変明確である
B 3点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である
C 1点	企業が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である
観点2 発表内容のインパクト	
A 5点	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている
B 3点	発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある
C 1点	発表内容について、インパクトがあまりない
観点3 訴求力	
A 5点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。
B 3点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意がある程度感じられる
C 1点	発表者の声量や視線からこの課題に対する熱意があまり感じられない

授業日	9/10(火)	2 学期授業回数	1 回目 / 全 10 回
本時 学習目標	<p>主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②</p> <p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みの間に考えた AI を用いた製品について、プレゼンテーションを行うことが出来る</li> <li>他の AI の製品について、アドバイスを加えることが出来る</li> </ul>		
時間 授業内容	90	<p>1) 以下の夏休みの宿題に基づいた、2 分間発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Classi のメッセージ機能で個人-教員 2 名で意見交換をし続ける</li> <li>最終目標は、次ページ以降のスライドを用いた 2 分間のプレゼン</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>•メッセージのやり取り回数や内容の深さを評価します</li> <li>•最初のメッセージは 【そのAI の分類】 (教育・行政・企業・社会課題の解決など、あなたが想定するプレゼンの場所) 【そのAI は実際に何をするのか】 【それは拡張? 代行?】 【なぜ、このAI が必要と思う?】</li> <li>•発表形式: 5つのスライド タイトル / 概要 / 課題 / ソリューション / 効果</li> </ul> <p>2) 生徒達は相互評価を行う</p>								
評価方法	<table border="1"> <tr> <td>観点1 そのアイデアに用いられるAIの「概要」「課題」「ソリューション」「効果」と分類「AIは何をする」「観点2 そのアイデアを実施することの「必要性」、世の中の人を動かす「波及性」、売れそうなのかの「説明の明確性」</td> <td>観点3 訴求力</td> </tr> <tr> <td>A 3a 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」だけでなく、用いられるAIの「仕組み」の説明の全ての項目の説明が大変明確である</td> <td>A 3a 発表者の声量や振動からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。</td> </tr> <tr> <td>B 3a 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である</td> <td>B 3a 発表者の声量や振動からこの課題に対する熱意がある程度感じられる</td> </tr> <tr> <td>C 3a 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である</td> <td>C 3a 発表者の声量や振動からこの課題に対する熱意があまり感じられない</td> </tr> </table>	観点1 そのアイデアに用いられるAIの「概要」「課題」「ソリューション」「効果」と分類「AIは何をする」「観点2 そのアイデアを実施することの「必要性」、世の中の人を動かす「波及性」、売れそうなのかの「説明の明確性」	観点3 訴求力	A 3a 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」だけでなく、用いられるAIの「仕組み」の説明の全ての項目の説明が大変明確である	A 3a 発表者の声量や振動からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。	B 3a 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である	B 3a 発表者の声量や振動からこの課題に対する熱意がある程度感じられる	C 3a 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である	C 3a 発表者の声量や振動からこの課題に対する熱意があまり感じられない
観点1 そのアイデアに用いられるAIの「概要」「課題」「ソリューション」「効果」と分類「AIは何をする」「観点2 そのアイデアを実施することの「必要性」、世の中の人を動かす「波及性」、売れそうなのかの「説明の明確性」	観点3 訴求力								
A 3a 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」だけでなく、用いられるAIの「仕組み」の説明の全ての項目の説明が大変明確である	A 3a 発表者の声量や振動からこの課題に対する熱意が全員から強く感じられる。								
B 3a 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」の全ての項目の説明がある程度明確である	B 3a 発表者の声量や振動からこの課題に対する熱意がある程度感じられる								
C 3a 企業や行政が抱える「課題」、それに対するAIを用いた「ソリューション」、それによる「効果」のいずれかの項目の説明が不十分である	C 3a 発表者の声量や振動からこの課題に対する熱意があまり感じられない								
宿題指示	なし								

授業日	9/17(火)	2 学期授業回数	2 回目 / 全 10 回																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・自分の発表内容を客観的に振り返ることができる																		
時間 授業内容	10 分	・教員からの前回の発表の総括 <以下、全てを学びの記録に記載>																	
	25 分×2	1) 5人×5グループ、4人×2グループ これを2ターン → 学びの記録「1」の部分 ・4分間、友人から質疑を受け回答する。質疑応答自分が言われたことをメモする																	
	15 分	2) 教員の全体へのコメント ロイロ1枚でまとめる → 学びの記録「1」の部分																	
	15 分	3) 夏休みの宿題を見ながら、事実や実際の AI 活用を確認する、日経新聞で調べる なければ新たな類似品がないか調べる → 学びの記録「2」の部分																	
	15 分	4) 自分が今後調べるべきことは何か (AI の機能、社会課題の周辺知識など)を整理する → 学びの記録「3」の部分																	
評価方法	学びの記録 <table border="1"> <tr> <th>観点1 考察</th> <th>観点2 考察</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>プレゼンについてしっかりと振り返って記述できている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>プレゼンについてある程度振り返って記述している</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>プレゼンについて振り返りが記述されていない</td> </tr> <tr> <th>観点3 考察</th> <th>観点4 考察</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>AI活用を考えるために必要なことをしっかりと理解し、具体的に記述できている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>AI活用を考えるために必要なことをある程度理解し、具体的に記述できている</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>表層的な感想や意見にとどまっている</td> </tr> </table>			観点1 考察	観点2 考察	A	プレゼンについてしっかりと振り返って記述できている	B	プレゼンについてある程度振り返って記述している	C	プレゼンについて振り返りが記述されていない	観点3 考察	観点4 考察	A	AI活用を考えるために必要なことをしっかりと理解し、具体的に記述できている	B	AI活用を考えるために必要なことをある程度理解し、具体的に記述できている	C	表層的な感想や意見にとどまっている
観点1 考察	観点2 考察																		
A	プレゼンについてしっかりと振り返って記述できている																		
B	プレゼンについてある程度振り返って記述している																		
C	プレゼンについて振り返りが記述されていない																		
観点3 考察	観点4 考察																		
A	AI活用を考えるために必要なことをしっかりと理解し、具体的に記述できている																		
B	AI活用を考えるために必要なことをある程度理解し、具体的に記述できている																		
C	表層的な感想や意見にとどまっている																		
宿題指示	・学びの記録を書き上げる ・日経新聞またはその他リソースから、新たな「社会課題」「AI」カードを1つずつ作成する → ロイロの提出箱に提出+共有ノートに共有																		

授業日	9/24(火)	2 学期授業回数	3 回目 / 全 10 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・社会課題を具体的に考えることができる ・社会課題に対して AI を活用した解決策を考えることができる		
時間 授業内容	5 分	宿題に対する総括	
	20 分	学びの記録をお互いに読み合う+プレゼン資料	
	20 分	生徒代表によるグルーピング 課題の具体化 → ワークシート	
	45 分	・ワークシート配布 「課題の具体化：社会課題編」「課題の具体化：AI 活用編」「課題の具体化：AI を考えるプロセス編」 ・「問い」の作り方の説明 → 問いとは → アイデアの探し方 ・リファレンスリストの作り方、情報カードの作り方の説明 ・プレゼン内容 1 グループ 8 分 + 2 分の巳波先生の質疑応用 30 秒 → <つかみ> 2 分 → <社会課題は何か> 4 分 → <それに対して AI がどう関わるか> 1.5 分 → <このように社会が変わるの]ではないか> 必ず各グループ 1 か所 フィールドスタディ/インタビュー/アンケートなどを行った学びを挿入する	
評価方法	特になし		
宿題指示	各グループにおいて、ワークシートやリサーチを開始		

授業日	10/1(火)	2 学期授業回数	4 回目 / 全 10 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・実際の AI の体験を通して、課題を解決する案を協働で考えることができる ・Scratch で画像認識の AI を作成することができる。		
時間 授業内容	5 分	・前回の授業の振り返り 巳波先生のゼミ生によるワークショップ 1 回目	
	10 分	・Scratch のデータを DL → Scratch 上でファイルを開き、「○△×☆」の画像認識を体験	
	5 分	・5 分間のアプリ作成の動画を見る	
	35 分	・8 つのグループに分かれ、画像認識を使った課題解決案を考える	
	5 分	・解決案の簡単な共有	
	30 分	・Scratch で実装を開始	
評価方法	途中経過のため、最終発表で評価する		
宿題指示			

授業日	10/8(火)	2 学期授業回数	5 回目 / 全 10 回
-----	---------	----------	---------------

本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③	
	本時の具体的な目標 ・実際のAIの体験を通して、課題を解決する案を協働で考えることができる ・Scratchで画像認識のAIを作成することができる。	
時間 授業内容	90分	巳波先生ゼミ生によるワークショップ2回目 ・Scratchで実装 ・次回授業の発表(5分以内)+質疑(2分)に向けて準備 ・評価観点を提示：①必要性 ②実現可能性 ③論理展開の明確さ
評価方法	途中経過のため、最終発表で評価する	
宿題指示		

授業日	10/22(火)	2学期授業回数	6回目 / 全10回																								
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】																										
	本時の具体的な目標 ・実際のAIの体験を通して、課題を解決する案を協働で考えることができる ・Scratchで画像認識のAIを作成することができる。																										
時間 授業内容	80	巳波先生+ゼミ生3人に対して、8グループによる発表 ・発表5分間+質疑応答2分間 ・「画像認識AIを用いたプロダクトのアイデア」																									
	10	巳波先生+ゼミ生による総括																									
評価方法	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">観点1 発表の「論理展開の明確さ」</td> </tr> <tr> <td>A 5点</td> <td>5分間の発表において、画像認識AIを用いたアイデアについての論理の展開が大変明確である。</td> </tr> <tr> <td>B 3点</td> <td>5分間の発表において、画像認識AIを用いたアイデアについての論理の展開がある程度明確である。</td> </tr> <tr> <td>C 1点</td> <td>5分間の発表において、画像認識AIを用いたアイデアについての論理の展開があまり明確ではない。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点2 画像認識AIを用いたプロダクトのアイデアの「必要性」</td> </tr> <tr> <td>A 5点</td> <td>そのプロダクトが必要であることが、十分に伝わってくる。</td> </tr> <tr> <td>B 3点</td> <td>そのプロダクトが必要であることが、ある程度伝わってくる。</td> </tr> <tr> <td>C 1点</td> <td>そのプロダクトが必要であることが、あまり伝わってこない。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">観点3 画像認識AIを用いたプロダクトのアイデアの「実現可能性」</td> </tr> <tr> <td>A 5点</td> <td>そのプロダクトが実際に実装される可能性は、大変高く感じる。</td> </tr> <tr> <td>B 3点</td> <td>そのプロダクトが実際に実装される可能性は、ある程度ありそうである。</td> </tr> <tr> <td>C 1点</td> <td>そのプロダクトが実際に実装される可能性は、あまりなさそうである。</td> </tr> </table>			観点1 発表の「論理展開の明確さ」		A 5点	5分間の発表において、画像認識AIを用いたアイデアについての論理の展開が大変明確である。	B 3点	5分間の発表において、画像認識AIを用いたアイデアについての論理の展開がある程度明確である。	C 1点	5分間の発表において、画像認識AIを用いたアイデアについての論理の展開があまり明確ではない。	観点2 画像認識AIを用いたプロダクトのアイデアの「必要性」		A 5点	そのプロダクトが必要であることが、十分に伝わってくる。	B 3点	そのプロダクトが必要であることが、ある程度伝わってくる。	C 1点	そのプロダクトが必要であることが、あまり伝わってこない。	観点3 画像認識AIを用いたプロダクトのアイデアの「実現可能性」		A 5点	そのプロダクトが実際に実装される可能性は、大変高く感じる。	B 3点	そのプロダクトが実際に実装される可能性は、ある程度ありそうである。	C 1点	そのプロダクトが実際に実装される可能性は、あまりなさそうである。
観点1 発表の「論理展開の明確さ」																											
A 5点	5分間の発表において、画像認識AIを用いたアイデアについての論理の展開が大変明確である。																										
B 3点	5分間の発表において、画像認識AIを用いたアイデアについての論理の展開がある程度明確である。																										
C 1点	5分間の発表において、画像認識AIを用いたアイデアについての論理の展開があまり明確ではない。																										
観点2 画像認識AIを用いたプロダクトのアイデアの「必要性」																											
A 5点	そのプロダクトが必要であることが、十分に伝わってくる。																										
B 3点	そのプロダクトが必要であることが、ある程度伝わってくる。																										
C 1点	そのプロダクトが必要であることが、あまり伝わってこない。																										
観点3 画像認識AIを用いたプロダクトのアイデアの「実現可能性」																											
A 5点	そのプロダクトが実際に実装される可能性は、大変高く感じる。																										
B 3点	そのプロダクトが実際に実装される可能性は、ある程度ありそうである。																										
C 1点	そのプロダクトが実際に実装される可能性は、あまりなさそうである。																										
宿題指示	ワークを継続																										

授業日	10/29(火)	2学期授業回数	7回目 / 全10回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③		
	本時の具体的な目標 ・新明和工業について、企業理念やAIを実装した製品について語ることが出来る ・社会課題を具体的に考えることが出来る ・社会課題に対してAIを活用した解決策を考えることが出来る		
時間 授業内容	45	新明和について調べ、当日する質問項目を作る <以下、質問項目> 【①企業の概要】 新明和工業の企業理念や企業としての取り組みをホームページから情報を集めて整理してみよう。	

	45	<p>【②AI製品の概要】新明和工業がAIを実装させた製品の概要をまとめよう（課題・ソリューション・効果）。</p> <p>【③疑問の整理】上記①②について2つずつ、実際に担当者にお会いした時に聞いてみたい質問を挙げてみよう。Classi アンケートに入力&lt;何についての質問なのかをはっきりさせること&gt;各グループのワークを継続</p>														
評価方法	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">観点①</td> <td>A</td> <td>AI製品の概要を課題・ソリューション・効果の観点からしっかりと記述されている</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>AI製品の概要を課題・ソリューション・効果の観点からある程度記述されている</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>AI製品の概要が表面的にしか記述されていない</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">観点②</td> <td>A</td> <td>企業に対する質問としての的を射ており、上記整理項目とのつながりがしっかりとある</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>企業に対する質問としての的を射ており、上記内容とのつながりもある程度ある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>企業に対する質問としては内容が表面的であり、上記内容とのつながりもない。</td> </tr> </table>	観点①	A	AI製品の概要を課題・ソリューション・効果の観点からしっかりと記述されている	B	AI製品の概要を課題・ソリューション・効果の観点からある程度記述されている	C	AI製品の概要が表面的にしか記述されていない	観点②	A	企業に対する質問としての的を射ており、上記整理項目とのつながりがしっかりとある	B	企業に対する質問としての的を射ており、上記内容とのつながりもある程度ある	C	企業に対する質問としては内容が表面的であり、上記内容とのつながりもない。	
観点①	A		AI製品の概要を課題・ソリューション・効果の観点からしっかりと記述されている													
	B		AI製品の概要を課題・ソリューション・効果の観点からある程度記述されている													
	C	AI製品の概要が表面的にしか記述されていない														
観点②	A	企業に対する質問としての的を射ており、上記整理項目とのつながりがしっかりとある														
	B	企業に対する質問としての的を射ており、上記内容とのつながりもある程度ある														
	C	企業に対する質問としては内容が表面的であり、上記内容とのつながりもない。														
宿題指示																

授業日	11/12(火)	2 学期授業回数	8 回目 / 全 10 回													
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・新明和工業を通して AI を活用した実際の解決策やその過程を知る															
時間 授業内容	13:20 13:20～ 13:40～ 14:40～	新明和工業会部四季会社フィールドスタディ 新明和工業 南門集合 新明和工業 会社紹介 新明和における AI 活用の講演 質疑応答														
評価方法	学びの記録 <table border="1"> <tr> <td>観点①</td> <td>A</td> <td>企業訪問で知ったことを自分たちの活動と強く結びつけて、深く考えられている。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B</td> <td>企業訪問で知ったことを自分たちの活動と結びつけて考えられている。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C</td> <td>企業訪問で知ったことと自分たちの活動の結びつきを感じられない。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td><b>K: 知識 / 事実 = Know</b></td> <td><b>W: 考察 = What I think / Want to know</b></td> </tr> <tr> <td>新明和工業が企業として、どのように AI を活用し、社会のなかでどのように役割を果たそうとしているか知ったことを挙げよう。 &lt;課題・ソリューション・効果を意識すること&gt;</td> <td>普段授業で取り組んでいることや考えていることと結びつけて、気が付いたこと、考えさせられたことや自分たちのアイデアにも活かせると感じるものを挙げておこう</td> </tr> </table>			観点①	A	企業訪問で知ったことを自分たちの活動と強く結びつけて、深く考えられている。		B	企業訪問で知ったことを自分たちの活動と結びつけて考えられている。		C	企業訪問で知ったことと自分たちの活動の結びつきを感じられない。	<b>K: 知識 / 事実 = Know</b>	<b>W: 考察 = What I think / Want to know</b>	新明和工業が企業として、どのように AI を活用し、社会のなかでどのように役割を果たそうとしているか知ったことを挙げよう。 <課題・ソリューション・効果を意識すること>	普段授業で取り組んでいることや考えていることと結びつけて、気が付いたこと、考えさせられたことや自分たちのアイデアにも活かせると感じるものを挙げておこう
観点①	A	企業訪問で知ったことを自分たちの活動と強く結びつけて、深く考えられている。														
	B	企業訪問で知ったことを自分たちの活動と結びつけて考えられている。														
	C	企業訪問で知ったことと自分たちの活動の結びつきを感じられない。														
<b>K: 知識 / 事実 = Know</b>	<b>W: 考察 = What I think / Want to know</b>															
新明和工業が企業として、どのように AI を活用し、社会のなかでどのように役割を果たそうとしているか知ったことを挙げよう。 <課題・ソリューション・効果を意識すること>	普段授業で取り組んでいることや考えていることと結びつけて、気が付いたこと、考えさせられたことや自分たちのアイデアにも活かせると感じるものを挙げておこう															
宿題指示	学びの記録															

授業日	11/19(火)	2 学期授業回数	9 回目 / 全 10 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・社会課題を具体的に考えることが出来る ・社会課題に対して AI を活用した解決策を考えることが出来る		
時間 授業内容	90	1/28(火)の発表に向けての準備 ・ワークシート作成、仮説づくり、レファレンスリスト・情報カード作成 ・各グループ教員と 10 分間の面接	
評価方法	なし		
宿題指示	11/29(金) 全て提出		

授業日	11/26(火)	2 学期授業回数	10 回目 / 全 10 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ ----- 本時の具体的な目標 ・ 社会課題を具体的に考えることができる ・ 社会課題に対して AI を活用した解決策を考えることができる		
時間 授業内容	90	<前回の授業と同様> 1/28(火)の発表に向けての準備 ・ ワークシート作成、仮説づくり、レファレンスリスト・情報カード作成 ・ 各グループ教員と 10 分間の面接	
評価方法	なし		
宿題指示	11/29(金) 全て提出		

授業日	1/14(火)	3 学期授業回数	1 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①②【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ ----- 本時の具体的な目標 ・ 社会課題を具体的に考えることができる ・ 社会課題に対して AI を活用した解決策を考えることができる		
時間 授業内容	15	・ フィールドスタディの意義の説明 1. 自分たちが関心のある課題に関わる情報について「知る」「考える」 →レファレンスカードを用いた文献調査 2. こうすればよいのではないかという「仮説」を作り、これで進めてみようとして「判断する」 →ワークシート作成 →<今回の主眼> フィールドスタディで感触を得る（インタビュー、アンケート、観察など） 3. 実際に「行動する」 →実際に AI を作成して実施する (4. 分析する) (5. 発表する) ・ 発表時のルーブリックの提示	
	75	・ 1/28(火)の発表に向けての準備 アポイントメントの電話かけ 各グループ教員と 10 分間の面接	
評価方法	特になし		
宿題指示	スライド作成		

授業日	1/21(火)	3 学期授業回数	2 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ ----- 本時の具体的な目標 ・ 社会課題を具体的に考えることができる ・ 社会課題に対して AI を活用した解決策を考えることができる		
時間 授業内容	90	翌週の発表の準備 ・ アポ取り	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Zoom インタビュー</li> <li>・対面 インタビュー</li> <li>・アンケート配信</li> <li>・スライド作り</li> </ul>
評価方法	特になし	
宿題指示	スライド作成	

授業日	1/28(火)	3 学期授業回数	3 回目 / 全 6 回																				
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題を具体的に考えることが出来る</li> <li>・社会課題に対して AI を活用した解決策を考えることが出来る</li> </ul>																						
時間 授業内容	発表 ・審査員：関西学院大学工学部 巳波弘佳教授 新明和工業 有岡献 氏 ・8 グループ 8 分発表+2 分 審査員との質疑応答 (上位 2 グループが翌週発表会参加)																						
評価方法	<table border="1"> <tr> <td><b>観点1 発表のつかみ:おっ!面白そう!</b></td> </tr> <tr> <td>A 5点 聴衆の関心や興味を強く引き付ける効果的な「つかみ」があった</td> </tr> <tr> <td>B 3点 聴衆の関心や興味をある程度引き付ける「つかみ」があった</td> </tr> <tr> <td>C 1点 聴衆の関心や興味を引き付ける「つかみ」があまり効果的ではなかった、もしくはなかった</td> </tr> <tr> <td><b>観点2 社会課題の明確さ:何が問題なのか?それはどれくらい問題なのか?</b></td> </tr> <tr> <td>A 5点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がしっかりと文献などのデータに基づいているため大変明確である</td> </tr> <tr> <td>B 3点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がある程度文献などのデータに基づいているためそれなりに分かる</td> </tr> <tr> <td>C 1点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」が文献などのデータに基づいていないため明確ではない</td> </tr> <tr> <td><b>観点3 AI活用の仕組み:AIがどのように社会課題解決に関わるか?</b></td> </tr> <tr> <td>A 5点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明が大変明確である</td> </tr> <tr> <td>B 3点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明がある程度明確である</td> </tr> <tr> <td>C 1点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明があまりなく不明確である</td> </tr> <tr> <td><b>観点4 AI活用の「効果」:このように社会が変わるのではないか?</b></td> </tr> <tr> <td>A 5点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明が大変論理的に説明されている</td> </tr> <tr> <td>B 3点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明がある程度論理的に説明されている</td> </tr> <tr> <td>C 1点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明があまり論理的ではない</td> </tr> <tr> <td><b>観点5 フィールドスタディでの学び:自分達が得た独自のデータはこれで、このデータからこんなことが言える!!</b></td> </tr> <tr> <td>A 5点 フィールドスタディで得たデータの説明が明確で、そのデータがアイデアにしっかりと活かされている</td> </tr> <tr> <td>B 3点 フィールドスタディで得たデータの説明がある程度明確で、そのデータがアイデアにある程度活かされている</td> </tr> <tr> <td>C 1点 フィールドスタディで得たデータの説明がない、もしくはそのデータがあまり活かされていない</td> </tr> </table>			<b>観点1 発表のつかみ:おっ!面白そう!</b>	A 5点 聴衆の関心や興味を強く引き付ける効果的な「つかみ」があった	B 3点 聴衆の関心や興味をある程度引き付ける「つかみ」があった	C 1点 聴衆の関心や興味を引き付ける「つかみ」があまり効果的ではなかった、もしくはなかった	<b>観点2 社会課題の明確さ:何が問題なのか?それはどれくらい問題なのか?</b>	A 5点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がしっかりと文献などのデータに基づいているため大変明確である	B 3点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がある程度文献などのデータに基づいているためそれなりに分かる	C 1点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」が文献などのデータに基づいていないため明確ではない	<b>観点3 AI活用の仕組み:AIがどのように社会課題解決に関わるか?</b>	A 5点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明が大変明確である	B 3点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明がある程度明確である	C 1点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明があまりなく不明確である	<b>観点4 AI活用の「効果」:このように社会が変わるのではないか?</b>	A 5点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明が大変論理的に説明されている	B 3点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明がある程度論理的に説明されている	C 1点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明があまり論理的ではない	<b>観点5 フィールドスタディでの学び:自分達が得た独自のデータはこれで、このデータからこんなことが言える!!</b>	A 5点 フィールドスタディで得たデータの説明が明確で、そのデータがアイデアにしっかりと活かされている	B 3点 フィールドスタディで得たデータの説明がある程度明確で、そのデータがアイデアにある程度活かされている	C 1点 フィールドスタディで得たデータの説明がない、もしくはそのデータがあまり活かされていない
<b>観点1 発表のつかみ:おっ!面白そう!</b>																							
A 5点 聴衆の関心や興味を強く引き付ける効果的な「つかみ」があった																							
B 3点 聴衆の関心や興味をある程度引き付ける「つかみ」があった																							
C 1点 聴衆の関心や興味を引き付ける「つかみ」があまり効果的ではなかった、もしくはなかった																							
<b>観点2 社会課題の明確さ:何が問題なのか?それはどれくらい問題なのか?</b>																							
A 5点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がしっかりと文献などのデータに基づいているため大変明確である																							
B 3点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」がある程度文献などのデータに基づいているためそれなりに分かる																							
C 1点 自分たちが対象とした社会課題の「課題感(内容や深刻さ)」が文献などのデータに基づいていないため明確ではない																							
<b>観点3 AI活用の仕組み:AIがどのように社会課題解決に関わるか?</b>																							
A 5点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明が大変明確である																							
B 3点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明がある程度明確である																							
C 1点 社会課題に対してAIがどのように活用されて(データ、機能、使用方法など)いるのかの説明があまりなく不明確である																							
<b>観点4 AI活用の「効果」:このように社会が変わるのではないか?</b>																							
A 5点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明が大変論理的に説明されている																							
B 3点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明がある程度論理的に説明されている																							
C 1点 「課題」(観点2)、それに対するAIを用いた「ソリューション」(観点3)を用いることで社会に起こる「効果」の説明があまり論理的ではない																							
<b>観点5 フィールドスタディでの学び:自分達が得た独自のデータはこれで、このデータからこんなことが言える!!</b>																							
A 5点 フィールドスタディで得たデータの説明が明確で、そのデータがアイデアにしっかりと活かされている																							
B 3点 フィールドスタディで得たデータの説明がある程度明確で、そのデータがアイデアにある程度活かされている																							
C 1点 フィールドスタディで得たデータの説明がない、もしくはそのデータがあまり活かされていない																							
宿題指示	相互評価表																						

授業日	2/4(火)	3 学期授業回数	4 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット：今回は該当せず 本時の具体的な目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の探究型授業がどのようなことを考えているのか知る</li> </ul>		
時間 授業内容	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 グループ (音楽 AI と日記 AI) は発表</li> <li>・その他のグループは他の授業の発表を聞く</li> </ul> <質問の観点>：以下の4点を気を付けて、質問をする「 <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問の手順：             <ol style="list-style-type: none"> <li>①名乗る：自分の質問に責任を持とう！</li> <li>②良いと思った点を伝える：自分にとって有意義だった点を、発表者に伝えてあげよう！</li> <li>③質問する：その上で質問をしよう！</li> </ol> </li> </ul>	

	<p>・質問の種類：2つの質問の種類を組み合わせよう！！</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>クローズドクエスチョン</th> <th>オープンクエスチョン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目的</td> <td>相手の考えや事実を「明確」にする</td> <td>相手からより多くの情報を「引き出す」</td> </tr> <tr> <td>聞き方</td> <td>What / Which / Who / Where / When / Is / Are / Have 「〇〇については、△△という理解で良いでしょうか？」 「〇〇について、もう少し/もう一度説明してもらえますか？」</td> <td>Why / How / Do you think… / I think…but / If… 「〇〇の場合は××ということですが、△△の場合はどうでしょう？」 「〇〇という説明でしたが、私は□□になると思います。それについてはどう思われますか？」</td> </tr> </tbody> </table>		種類	クローズドクエスチョン	オープンクエスチョン	目的	相手の考えや事実を「明確」にする	相手からより多くの情報を「引き出す」	聞き方	What / Which / Who / Where / When / Is / Are / Have 「〇〇については、△△という理解で良いでしょうか？」 「〇〇について、もう少し/もう一度説明してもらえますか？」	Why / How / Do you think… / I think…but / If… 「〇〇の場合は××ということですが、△△の場合はどうでしょう？」 「〇〇という説明でしたが、私は□□になると思います。それについてはどう思われますか？」													
	種類	クローズドクエスチョン	オープンクエスチョン																					
	目的	相手の考えや事実を「明確」にする	相手からより多くの情報を「引き出す」																					
	聞き方	What / Which / Who / Where / When / Is / Are / Have 「〇〇については、△△という理解で良いでしょうか？」 「〇〇について、もう少し/もう一度説明してもらえますか？」	Why / How / Do you think… / I think…but / If… 「〇〇の場合は××ということですが、△△の場合はどうでしょう？」 「〇〇という説明でしたが、私は□□になると思います。それについてはどう思われますか？」																					
<p>・質問の着眼点： 次のポイントを少し意識してみよう</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ポイント</th> <th>質問の例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原因と結果の関係</td> <td>そのような結果には〇〇が大事だとおっしゃったが、△△の可能性についてはどう思いますか？</td> </tr> <tr> <td>数字やデータの背景</td> <td>「人は第1印象で全て決まる」とおっしゃいましたが、その根拠（客観的なデータ）は何ですか？</td> </tr> <tr> <td>具体的な例</td> <td>「スマホは学習生活に悪影響を与える」とは、具体的にはどのような影響ですか？</td> </tr> <tr> <td>自分の経験</td> <td>自分の経験からは AI に対して心を開くのは難しいと思うのですが、どうしてそれが可能なんですか？</td> </tr> </tbody> </table>		ポイント	質問の例	原因と結果の関係	そのような結果には〇〇が大事だとおっしゃったが、△△の可能性についてはどう思いますか？	数字やデータの背景	「人は第1印象で全て決まる」とおっしゃいましたが、その根拠（客観的なデータ）は何ですか？	具体的な例	「スマホは学習生活に悪影響を与える」とは、具体的にはどのような影響ですか？	自分の経験	自分の経験からは AI に対して心を開くのは難しいと思うのですが、どうしてそれが可能なんですか？													
ポイント	質問の例																							
原因と結果の関係	そのような結果には〇〇が大事だとおっしゃったが、△△の可能性についてはどう思いますか？																							
数字やデータの背景	「人は第1印象で全て決まる」とおっしゃいましたが、その根拠（客観的なデータ）は何ですか？																							
具体的な例	「スマホは学習生活に悪影響を与える」とは、具体的にはどのような影響ですか？																							
自分の経験	自分の経験からは AI に対して心を開くのは難しいと思うのですが、どうしてそれが可能なんですか？																							
<p>・探究的な質問の例： 探究のステップに沿った質問もできます。ほんの一例です。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>探究のステップ</th> <th>項目</th> <th>質問例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">① 課題の設定</td> <td>動機/関心</td> <td>なぜあなたは、そもそもこのような探究/調査をされようとしたのですか？</td> </tr> <tr> <td>課題の背景</td> <td>その社会課題に関わる先行研究の内容/事実関係についてもう少し教えてもらえますか？ 〇〇について、どのようなことがすでに明らかになっているのですか？</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td>この探究を通じて、あなたはどのようなことを目指そう（解決したい）と思っていますか？ あなたは、これからどのような社会を作りたいと思っていますか？</td> </tr> <tr> <td>定義</td> <td>この〇〇という言葉の定義について教えてもらえますか？</td> </tr> <tr> <td>② 情報の収集</td> <td>方法</td> <td>どうしてそのような方法で情報を集めようとしたのですか？ 場合によったら、インタビューの方が適していると思うのですが、なぜアンケートをしたのですか？ その質問項目は、何か先行研究をベースにされましたか？</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③ 整理・分析</td> <td>結果・考察</td> <td>〇〇という結果を得られた要因には、他に何か挙げられますか？ 私は〇〇が一番の原因だと思うのですが、それについてはどう思われますか？ 得られた結果は、どのような影響を社会に与えると思いますか？どのように活用されますか？</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>この探究の課題（うまくいかなかったこと）は何かありますか？今後取り組みたいことはありますか？</td> </tr> <tr> <td>④ まとめ・表現</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		探究のステップ	項目	質問例	① 課題の設定	動機/関心	なぜあなたは、そもそもこのような探究/調査をされようとしたのですか？	課題の背景	その社会課題に関わる先行研究の内容/事実関係についてもう少し教えてもらえますか？ 〇〇について、どのようなことがすでに明らかになっているのですか？	目的	この探究を通じて、あなたはどのようなことを目指そう（解決したい）と思っていますか？ あなたは、これからどのような社会を作りたいと思っていますか？	定義	この〇〇という言葉の定義について教えてもらえますか？	② 情報の収集	方法	どうしてそのような方法で情報を集めようとしたのですか？ 場合によったら、インタビューの方が適していると思うのですが、なぜアンケートをしたのですか？ その質問項目は、何か先行研究をベースにされましたか？	③ 整理・分析	結果・考察	〇〇という結果を得られた要因には、他に何か挙げられますか？ 私は〇〇が一番の原因だと思うのですが、それについてはどう思われますか？ 得られた結果は、どのような影響を社会に与えると思いますか？どのように活用されますか？	課題	この探究の課題（うまくいかなかったこと）は何かありますか？今後取り組みたいことはありますか？	④ まとめ・表現		
探究のステップ	項目	質問例																						
① 課題の設定	動機/関心	なぜあなたは、そもそもこのような探究/調査をされようとしたのですか？																						
	課題の背景	その社会課題に関わる先行研究の内容/事実関係についてもう少し教えてもらえますか？ 〇〇について、どのようなことがすでに明らかになっているのですか？																						
	目的	この探究を通じて、あなたはどのようなことを目指そう（解決したい）と思っていますか？ あなたは、これからどのような社会を作りたいと思っていますか？																						
	定義	この〇〇という言葉の定義について教えてもらえますか？																						
② 情報の収集	方法	どうしてそのような方法で情報を集めようとしたのですか？ 場合によったら、インタビューの方が適していると思うのですが、なぜアンケートをしたのですか？ その質問項目は、何か先行研究をベースにされましたか？																						
③ 整理・分析	結果・考察	〇〇という結果を得られた要因には、他に何か挙げられますか？ 私は〇〇が一番の原因だと思うのですが、それについてはどう思われますか？ 得られた結果は、どのような影響を社会に与えると思いますか？どのように活用されますか？																						
	課題	この探究の課題（うまくいかなかったこと）は何かありますか？今後取り組みたいことはありますか？																						
④ まとめ・表現																								

評価方法	発表者に対する質問内容の質
宿題指示	特になし

授業日	2/18(火)	3 学期授業回数	5 回目 / 全 6 回
本時学習目標	<p>主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③</p> <p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの仮説とフィールドスタディをポスターにまとめることができる</li> </ul>		
時間	15	<p>・ポスター作り方の説明</p> <p>「〇〇な社会課題について、△△の AI を用いることで、□□の結果が得られる？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① タイトル</li> <li>② 仮説</li> <li>③ 仮説設定の背景</li> <li>④ 検証方法/フィールドスタディ方法</li> </ul>	

	75	⑤ 検証結果/フィールドスタディ結果 ⑥ 考察/結論/展望 ・上記の仮説の実現/実用可能性が高そうなので、実用化に向かう価値がありそうだ... ・上記の仮説の実現/実用可能性が低そうなので、別の AI 活用のアプローチが必要なのかもし れない/AI 活用はそぐわない... ・その他 ⑦ 引用文献・参考文献 作業
評価方法	本授業はなし	
宿題指示	この1年間の授業を振り返ってください。以下の4つの観点に必ず触れて、1000字程度(±10%)で述べなさい。 ①「AI活用」という視点でアイデアを考える上でのポイント ②研究(探究)における仮説づくりのポイント ③フィールドスタディが自分たちの研究(探究)に与える価値 ④自分だけの「学び」の発見 ・しっかりと下書きをしてから Classi のアンケートに提出すること ・期日は2/25(火)中とする。	

授業日	2/25(火)	3学期授業回数	6回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ ----- 本時の具体的な目標 ・自分たちの仮説とフィールドスタディをポスターにまとめることができる		
時間 授業内容	90	ポスター作成作業(前回の続き)	
評価方法			
宿題指示			